

【優秀賞】

団体名	北上川流域ものづくりネットワーク
活動の内容（概要）	「北上川流域ものづくりネットワーク」は、平成 18 年から、ものづくり産業の集積が進んでいる岩手県内の北上川流域地域を中心に、「ものづくりは人づくりから」をモットーに、産業界・教育界・行政が、それぞれの役割と責任で継続的に優れたものづくり産業人材の育成に取り組んでいる。 活動内容は、「小中学校のキャリア教育の支援」（児童・生徒・教員などの工場見学、出前授業）、「工業高校生等の技術向上と資格取得の促進、製造業への理解醸成」（生徒・教員などの工場見学、出前授業、実技講習会）、「会員企業若手従業員の資質向上の支援」の 3 本柱で成り立っている。

受賞理由

- ・地域の児童・生徒の職業理解の促進や職業意識等の醸成と、ものづくり企業が求める若手人材の確保・育成といった点で、win-win の関係が構築され、運営委員会を中心に企業・学校・行政組織等が連携した推進体制が充実している。
- ・事業目的が明確である（小中のキャリア教育の支援、工業高校生等の技術向上・職業理解、会員企業若手従業員の資質向上の支援）。
- ・平成 18 年度から年々組織を拡充しながら発展（定期的な運営委員会、活動報告、先進地視察など）している。
- ・産学官の連携にとどまらず、活動の根底に、若者が地域に残り豊かに暮らせるようにするための方策や提言が見られる。
- ・小学校段階から高校段階まで一貫して、ものづくり企業への理解促進、人材育成のための支援等が充実している。
- ・産学官が連携するための工夫や進捗状況の把握、評価等の方法が適切である。
- ・事業展開のための独自に財源の確保（企業会員による年会費制）を行っている。
- ・企業による教員向けの研修を行うことにより、教員の意識向上と指導スキルアップにつながっている。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

岩手県立黒沢尻工業高等学校ほか 13 高等学校、国立大学法人岩手大学ほか 5 大学等、岩手県教育委員会ほか 5 教育委員会

【行政】岩手県、北上市ほか 11 自治体

【産業界】社団法人岩手県工業クラブほか 31 団体、企業 155 社

活動開始の経緯

平成 17 年 11 月、岩手県知事は、県内産業界と教育界の有識者からなる「いわて産業人材育成会議」より、21 世紀の産業先進県を目指し、その基盤となる高度な産業人材を育成するための新しい仕組みについての提言を受けた。

「北上川流域ものづくりネットワーク」は、この提言を具体化するため、産学官連携による、ものづくり人材育成に取り組む組織として、平成 18 年 5 月、設立された。

活動実績

- 小中学生対象 工場見学・出前授業 301 回



小学生工場見学



中学生対象出前授業

- 高校生等対象 実技講習会 511 回
工場見学・出前授業 196 回



高校生実技講習会

- 会員企業等対象 ものづくりいわて塾 82 回
(現在 14 期生 29 名、OB会の発足 261 名)
(以上、平成 18 年度～24 年度の累計)
- 岩手県内工業高校生(専攻科含む)の技能検定(ものづくり関連職種)の合格者数
平成 18 年度 56 人、平成 19 年度 145 人、平成 20 年度 276 人、平成 21 年度 340 人、平成 22 年度 400 人、平成 23 年度 539 人、平成 24 年度 657 人

「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

- 現在、220 団体(企業 155、学校 18、団体 31、行政 16)で構成され、総会で選任される、各界からの運営委員及び監事(現在 19 名)により、運営・評価を行っている。
- 地元企業のOBに、「ネットワーク・コーディネーター」として、工場見学・出前授業などの派遣講師の掘り起こしや依頼など、学校と企業の間のような調整を担ってもらっている。
- 実技講習の指導者を「匠」、講話者を「語りべ」として人材バンクに登録し、必要に応じ速やかに協力を依頼できる体制をとっている。

「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

- 3 か月ごとに活動報告を作成し、全会員に郵送、その後、ホームページにアップするなど、継続的にネットワーク活動への関心を高めてもらうための「見える化」に取り組んでいる。

- 毎年3回（おおむね5月、10月、2月）、運営委員及び監事による運営委員会を開催し、活動の評価・分析を行った上で、次年度以降の方針を決定している。
- 定期的に先進他地域の学校や企業への視察を行い、活動の参考としている。具体的には、平成22年に岐阜県を訪問した際、「高校生のための改善塾」を参考とし、23年度から高校生への出前授業に「カイゼン基礎講座」を新設した。

「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

- 北上川流域地域は、岩手県の工業製品出荷額の7割を占めるなど、ものづくり産業が集積している地域であり、ものづくり人材の継続的な育成は、地域の重要課題となっている。ネットワーク活動においては、数多いものづくり企業の経営者や従業員の方々に講師を依頼している。
- 小中学校を対象とした事業では、児童・生徒と年齢の近い若手従業員を派遣することにより、彼らが親しみやすくしている。工業高校等からのニーズは、職業現場での実践に基づく教育であり、産業界がその場を提供している。企業にとっても、社員教育に資する取組として、好評を得ている。
- 学校が効果的なキャリア教育を推進できるよう、工場見学や出前授業のノウハウを提供するとともに、計画段階から、準備、当日対応、アフターフォローまできめ細かく支援している。

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

- 本ネットワークの活動が契機となり、岩手県教育委員会では、平成25年度から、3年間で県内全小中学校のキャリア教育担当の教員が、ものづくり企業の工場見学を含めた研修を経験する計画を実施している。
- 本ネットワークの活動は、北上川流域地域にとどまらず、県内他地域に波及している。具体的には、東日本大震災で被災した沿岸地域の工業高校における実技講習会の支援や北上川流域地域内の企業への工場訪問のマッチングなどを行っている。



教員の工場見学

- 次世代の地域のものづくり産業の担い手として、女性の役割が大きいとの認識の下、地域で活躍する自動車関連企業の女性幹部で構成される「モノづくりなでしこ iwate」のメンバーを講師に工業高校生や教員に対する講演を行っている。

その他取組の工夫や特記事項

- 企業会員（155社（平成25年11月現在））から年会費3万円を募り、事業費（工場見学のバス代金、出前授業の講師謝金、旅費等）に充てており、行政等の予算に左右されない財源を確保している。
- 実技講習会は、当初、企業のベテラン従業員が指導していたが、その後、教員が自ら資格を取得し、学校が主体的に取り組むようになってきている。
- 最近では、技能五輪に選手を出すレベルになってきているほか、学校同士が刺激し合い、品質管理検定（QC検定）への挑戦など新たな取組を行うようになってきている。

学校現場の評価・感想・コメント

- ・ 「勉強や部活動が何の役に立つのだろう」と考えることもありましたが、将来、多くの人々と関係するための大切な練習をしているとわかりました。「中学校生活」は今しかない大変貴重なものであり、だからこそ大切に過ごしていこうと思いました。(出前授業受講生徒の声)
- ・ 地元ですばらしい工場があることを知り、うれしく感じるとともに大変誇りに思いました。(教員工場見学者の声)
- ・ 年12~15回行っている「地域産業論」は、地域の企業トップが毎週、学校を訪れ、専攻科や本科の生徒に授業を行っています。身近な企業のトップの話を生に聞ける機会は、大変、貴重です。また、企業の方が学校に頻繁にいらっしゃるようになり、学校に活気が出てきたと感じています。(黒沢尻工業高校)

直接連携・協働していない関係諸機関(行政・産業・地域団体等)からの評価・感想・コメントなど

- ・ 北上川流域ものづくりネットワークは、当地域の雇用の大きな受皿であるものづくり産業の人材育成を行っており、当協議会の目的とも重なることから、非常に参考となっております。ものづくりの現場を直接見たり、現役の企業人が学校を訪問したりすることは、子供たちにとって貴重な体験となっており、今後とも、情報共有をしながら、お互いの事業が効果的にできるよう、協力していきたいと思えます。(北上市雇用対策協議会:北上市及び西和賀町において、地域の発展を担う人材の確保、育成、定着等雇用の安定を目的に、就職・雇用情報等の提供、管内高校生への就職準備セミナー等就職支援などを実施)